

令和8（2026）年7月8日版 高谷
日時：令和8年7月17日（金）15：30～17：00頃
会場：県立北稜高校 会議室

「令和8年度：第二期 たまな地域高校生ピースボランティア」 取り組みについて

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

※進行：本田 涼子

- 1 挨拶・関係者自己紹介 ……15：30～15：35
□第二期 たまな地域高校生ピースボランティア
三年女子3名（内一期生が2名）、同男子2名、一年生男子1名 計6名

- 2 活動の趣旨、取り組み内容の紹介 ……15：35～15：50
……くまもと戦跡ネット 高谷 和生

- 3 大浜飛行場の空襲と戦争遺跡 ……15：50～16：05
……くまもと戦跡ネット 戸寄 孝行

- 4 紙芝居「長崎原爆被爆のおはなし」
……16：05～16：25
三年生女子二名旧たまな地域ピースボランティア
第一期生



- 5 浦田藤枝さん証言と意見交換
証言「伝えてきた私の長崎被爆体験」

（1）浦田さん、思いを聞かせてください！

（2）私たちは、この思いを心に刻みました！

（3）参加の玉名の小学生達と一緒に気づきたい、
感じたいことは！



□ 浦田藤枝さん紙芝居「長崎
原爆被害のおはなし」
□ 活水高等学校当時の浦田
さん1942年※写真中央

（4）「平和の紙風船」づくりは
メッセージボードは

- 6 第二期での取り組み等は



□ 玉名から見た長崎原爆雲

「令和8年度 たまな地域高校生ピースボランティア」事業計画案

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生

1 事業趣旨

令和6年10月8日に日本原水爆被害者団体協議会の2024年ノーベル平和賞受賞に際し、「ノーモア・ヒバクシャ」「核兵器廃絶」の声に耳を傾ける機会としたい。あわせて、本年は被団協設立「70周年」の節目でもある。

昨年度に引き続き、本年も地元玉名在住の被爆者浦田藤枝さんの証言を聞き、改めて原爆被害と核兵器の脅威、核廃絶を胸に刻みたい。

第二期となる本年度は、紙芝居等の上演等に関わる中で、次世代の高校生が平和継続のため「何を学び、どの様に継承するのか」を考える取り組みとしたい。

2 事業枠組み、内容

(1)「長崎被爆体験証言会と紙芝居 II」への参加と運営補助

ア 長崎被爆体験証言会と紙芝居

□証言会 「伝えてきた私の長崎被爆体験」

□証言者 浦田藤枝さん

※長崎純心高等学校時に被爆

□期 日 令和8（2026）年8月1日（土）

開場：午後1時

開演：1時30分～4時頃

□会 場 玉名市文化センター（中央公民館）

三階 大研修室 定員150名

□参加費 無 料

イ 当日運営等

□紙芝居上演「長崎原爆被害のおはなし」

□ワークショップ「平和の紙風船をつくろう」の運営補助

□紙風船折りの手伝い、平和のメッセージ書きの
手伝い、平和のメッセージボードの検討



浦田藤枝さんの証言
令和7年8月23日

(2) 北稜高校校内での長崎被爆体験証言会等の開催検討

□校内人権講演会（10／13予定）で「長崎被爆体験証言会」「日本被団協ノーベル平和賞受賞の講話会」開催の検討

□浦田さん証言紙芝居については、上演しやすいように更に「語り」部の改訂等

(3) その他・オプション

□大浜飛行場の現地フィールドワーク

□1945年5月13日大浜飛行場空襲体験者中嶋征子さんの紙芝居「大浜空襲とつながる命（仮）」の製作検討

3 日程 等

① 済み 一回目 6月30日（火）14：00～14：20頃

担当の井芹教諭と北稜高校生徒有志の参加体制、全体計画等での協議

② 二回目 7月17日（金）15時30分から17時頃

※実施計画案は、別途作製

□浦田藤枝さんの長崎被爆体験のお話し、昨年度参加生徒による紙芝居上演、大浜飛行場の紹介、生徒との交流・意見交換 他

□場所 校内会議室等

□参加者・関係者 北稜高校生徒有志・担当職員、くまもと戦跡ネット事務局

③ 三回目 7月末の平日 ※期日・時間は調整

□玉名市立歴史博物館「熊本地震から10年 くまもと戦争遺産被災レスキュー」展等の見学、常設・企画展の見学

□くまもと戦跡ネット事務局員・玉名市博職員からの解説

④ 四回目 8月1日（土）13時から ※当日

□参加は、五名程度で運営補助と事前準備、後片付け ワークショップ

□妙法寺「お泊まり寺小屋」児童の参加

⑤ 五回目 8／19（水）9：30～12：00

□玉名ルーテル学童クラブ

※実施計画案は、別途作製

□玉名市歴史博物館「赤星亮衛」展見学と平和展見学、体験学習

⑥ 六回目 10月上旬～下旬

□校内人権講演会での「長崎被爆体験証言会等」の開催検討

⑦ 七回目 11月初旬 北稜高校「文化祭」

□活動発表、校内展示等の検討

4 その他

- 参加する生徒へは、ボランティア証明「たまな地域高校生ピースボランティア参加証」を、玉名市教育長もしくは、くまもと戦跡ネットから発行する。
□参加生徒には、可能な限り交通費程度のクオカード等を準備する。



長崎被爆体験証言会と紙芝居Ⅱ

～日本原爆被害者団体協議会 設立70周年記念～

日時

令和8年(2026) **8.1** (土)

場所

参加費無料 申込不要

玉名市文化センター(中央公民館)3階 大研修室
12:30 開場 13:00 開会
玉名市繁根木88-1 (0968-75-1312)

ワークショップ作品「平和の紙風船」



紙芝居「長崎原爆被害のお話し」
「たまな地域高校生ピースボランティア」による上演



戦後80年での「浦田穂枝さん」長崎被爆体験の証言様子

内容

- 講話「設立70周年 日本被団協の活動」
熊本県被団協二世部会共同代表 原田俊二さん
- 証言会「伝えてきた私の長崎被爆体験」
被爆者 浦田穂枝さん(玉名市位明町)
- 紙芝居上映「長崎原爆被害のお話し」
上演 たまな地域高校生ピースボランティア
- 報告「初めて取り組んだピースボランティア」
たまな地域高校生ピースボランティア
- ワークショップ「平和の紙風船をつくらう」
参加児童・生徒、妙法寺・お泊り寺小僧
- 展示
浦田穂枝さん被爆資料、検死調査書、浦田さん証言紙芝居、ヒロシマ被爆瓦、ナガサキ被爆瓦資料、玉名から見た「長崎キノコ雲」の絵、伝えてきた「被爆証言人形」



長崎原爆遺跡「山王神社」の鳥居 一本足見

問い合わせ先



くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク
代表 高谷 和生
takayanagi912@yahoo.co.jp
<https://kumamoto-senseki.net/>



玉名市立歴史博物館ころこピア
熊本県玉名市岩崎117
TEL 0968-74-3989
<https://www.city.tamana.lg.jp/q/list/455.html>



連絡先

- 玉名市立歴史博物館ころこピア 田中
□くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生
〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
高谷個人携帯 090-1513-5528
高谷Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL <http://www.kumamoto-senseki.net/>

「仲良くすれば戦争起きず」

被爆者の浦田さん 玉名市で体験語る



自身の被爆体験を語る浦田藤枝さん＝23日、玉名市

くまもと
戦後
80年

15歳の時に長崎県で被爆した浦田藤枝さん(96)＝玉名市。玉名市の市立歴史博物館で、約90人が戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えた。くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク(高谷和生代表)と同館

の共催。浦田さんは「私の長崎被爆体験は生き抜いた80年」と題して講演。長崎純心高等女学校に通っていた頃の写真や、当時の服装を再現した人形を見せながら、原爆で家族や同級生を亡くした経験を話した。最後は、「仲良くすれば争いは起きないし、戦争にもならない」と呼びかけた。浦田さんの被爆体験を紙芝居にまとめた、潮心館高4年の越智咲耶子さんによる読み聞かせもあった。越智さんは「自分が経験していないことをどう表現すればよいか悩んだが、被爆者の思いを理解しようと努力する姿勢が大切で語った。熊本県原爆被害者団体協議会の「二世部会」共同代表の原田俊一さん(79)＝熊



本市北区。による講話や、北稜高の生徒による紙風船に平和へのメッセージを書くワークショップもあった。高谷代表は「地域の中で、戦争の経験を語り継ぐ第一歩になればうれしい」と話した。(遠山和泉)

くまもと戦後80年の取り組み

□被爆体験証言会の紹介
「仲良くすれば戦争起きず」
2025年8月31日熊日記事

□たまな地域高校生ピースボランティアの紹介
「平和の大切さ学び、考え続ける」
11月18日熊日記事

くまもと
戦後
80年



たまな地域高校生ピースボランティア(後列と浦田藤枝さん(前列左)、高谷和生代表、前列右)＝7日、玉名市

「平和の大切さ 学び、考え続ける」

玉名市の北稜高2、3年生でつくるグループ「たまな地域高校生ピースボランティア」(8人)は7日、同高の文化祭で活動を発表し、平和の大切さを生徒や来校者に訴えた。

グループは今夏、戦争や平和について学び、継承してもらおうと市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和生代表)の呼びかけで発足。これまで、長崎で被爆した浦田藤枝さん(96)＝同市＝に体験を聞いたり、被爆体験の証言会の運営を手伝ったりした。

この日、生徒はセーラー服、もんぺ代わりのカーゴパンツ、白はちまきを着用し、戦時下の女学生の服装を再現し

北稜高生
ピースボ
ランティア
報告会

てステージに登場。これまでの活動を振り返り「戦争中は大人だけでなく、子どもの生活も戦争一色だったと知った。二度と戦争を繰り返してはいけない」と述べた。その後、浦田さんの体験を題材にした紙芝居を読み聞かせた。

生徒の発表を聞いた浦田さんは「高校生が平和への思いを受け継いでくれてうれしい」と笑顔。3年の平川透子さんは「全国各地の戦争に関する資料館に行くなどし、学びを深めたい」と語った。

グループは今後、市内にあった軍用の大浜飛行場など、地域の戦争の歴史を調べ、伝える活動に取り組む予定。(遠山和泉)